

令和2年12月10日

ある日の授業風景

1年の教室をのぞいてみると大賀先生による数学の授業が行われていました。

そこでは生徒全員がコンパスと定規を使って、

一生懸命にプリントに向かっているのです。

のぞいてみると、何やら円をたくさん描いています。何に夢中になっている？

テレビの映像に目をやると、なぞは解決。答えは「梅の花」の作成。

正確には「家紋」を作る職人技に習い、

数学で学んだ円の特性を生かし、様々な物質をデッサンするというものでした。

生徒たちは、チャイムが鳴るのも忘れて、取り組んでいました。

【本日の目的】



【家紋（梅の花）】



これまで数学の授業では「図形」の単元で円の特性を学んできました。そして美術の学びとの教科横断的な要素を取り入れ、発展的な学習につなげました。

生徒たちは身につけた知識と基礎技術をもちいて物体を円で表現しました。

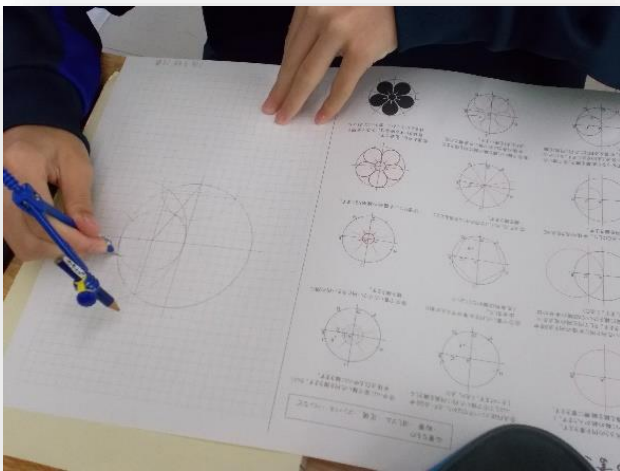
さらにこの先の授業では自分だけのロゴをデッサンし、作成につながっていきます。

そしてこの学習活動から、物体はどれだけの「円」で作成されているのか、かくれているのかをつきつめていきます。まさに新学習指導要領が目指している

「知から想像と思考を張り巡らせ、課題解決を進める」学習。

その一面を目にすることができた時間でした。

【なかなか、てごわい？】



【ていねいな取り組み】

